

平成30年度第2回 熊本市地域包括ケアシステム推進会議

1 日時 平成30年10月11日(火) 14時から

2 場所 ウェルパル熊本 1階大会議室

3 出席委員 (敬称略)

石橋 敏郎、高松 尚史、丸目 新一、耕 理千子、北里 堅二、内田 正剛、山本 恵仙、岩崎 智子、清水 勇人、隈部 成宏、末藤 榮一、川原 秀夫、金澤 知徳、鳩野 浩次、上村 妙子、山田 正、一安 勝、三浦 勲、工藤 啓子、大森 勲、内田 昭治、植松 浩二、

※オブザーバー 福島 貴子 (椿 裕子代理)

※欠席 園田 寛、宮崎 隆一、林 茂、宮内 大介、椿 裕子、石本 淳也、小山 登代子、西島 喜義、平川 恵子、牧尾 幸美、松本 建治

4 議事

(1) 第1回熊本市地域包括ケアシステム推進会議後の取り組み状況について(各区及び市の取り組み状況)

(2) 検討事項

(3) その他

5 議事録等(要旨)

○事務局

会議資料の説明。

○熊本市地域包括支援センター連絡協議会 金澤委員

高齢者の見守りについて、以前、在宅介護支援センター時代に相談協力員制度があり、民生委員と在宅介護支援センターをつないでいた。地域包括支援センターの協力者としての相談協力員制度というものをもう一度考えてはどうかと思っているがいかがか。

○事務局

北区が記載しているとおり商店や企業との連携で見守りを進めていくということもある。現在は仕組みはないが、今後そういった仕組みも必要となってくるのではないかと感じている。

○熊本市薬剤師会 丸目委員

自立支援型のケア会議の助言者として、専門職が参加しているが、会議出席にあたっての費用の支出がないと聞いている。

また、ささえりあが開催するため、昼間の開催となっており、医師等の参加が少ない状況となっていることについてどのように考えているのか聞きたい。

○事務局

今年度スタートした取組みであるため、今後課題として総合的に検討して改善していきたい。

○熊本市地域包括支援センター連絡協議会 金澤委員

在宅医療と介護の連携に関して、熊本大学や国立、日赤などの病院に研修医が初期研修として勤務している。

1ヶ月は地域医療という枠があり、地域に出て地域の課題を学ぶ機会がある。介護認定審査会で主治医意見書がどのように使われているのかを見て、主治医意見書の記載のポイントを学んだり、自宅での看取り等を人材育成の一環として取り入れてはどうかと思う。

○石橋会長

次の議事にうつる。検討事項について説明を求める。

○事務局

検討事項について説明。

○石橋会長

検討事項として、

①持続可能な地域の支えあいに向けた仕組みづくりと人づくりへのアイデア等

②地域で認知症高齢者見守るための情報共有や体制整備のアイデア等

③地域包括ケアに関する市民への広報啓発についての関係団体と協賛やコラボレーションに向けたアイデア等

3つとも大きなテーマだが、これをすればよいというものではなく、小さな試みでもやっていくしかないので、ネックになっているところ、留意しなければならないところ、忌憚のない意見をお聞かせ願いたい。

○熊本県理学療法士協会 北里委員

市民への広報啓発は大事なことである。『地域包括ケア』について、医療・保健・福祉の専門職は理解しており、浸透もしているが、市民の方々には浸透していない状況である。医療・保健・福祉という専門職種は本会議に参加しているが、県警と協力や住宅の件で建築関係課とのコラボもあるが、イメージとして、高齢者の虚弱者・虚弱になりそうな人・認知症の人の家族が地域包括ケアと関係のある人とイメージされがちだが、例えば、地域での生活ということで車椅子の通る道は乳母車も通りやすく一般の人にとっても通りやすいなど、だれもが関係することであり人ごとではない。

パーソナルモバイルを考える際に道路建設部署の職員に「地域包括ケア的な考えにとっても重要ですね」って、言う「地域包括ケアって何ですか？」と問い直されることがあると聞いた。

この会議に出席している職員の方以外の方の中には地域包括を理解されていない方もいると聞く事もある。市の職員も含め、高齢者も子どもも誰でもが、地域全体で地域包括ケアを聞いたことがある、あらかた知っているという状態となるような広報に取り組んでもらいたい。

○石橋会長

行政の人も住民なのだからその人がキーマンになってくれたら、というお話でした。よろしく願います。

○健康づくり・介護予防等を推進する東区の代表 工藤委員

中学校の空き教室を活用して、認知症カフェの第1回目を開催し45、6人の方が集まった。机もあるし、ささえりあ保田窪が中心の催しで、認知症の方は1人程度であったが、次は「うちの認知症の親をつれてこよう」とか問題を抱えておられる方の存在もわかった。今後も月に1度だが続けていきたいと思う。

学校というところは非常に効果がある。子供も来てくれるし、高齢者も自分が通ったことのある教室、親しみのある場所で、昔の記憶が戻るようだ。一般的に学校という場所は敷居の高いところだが子供たちにも認知症を知ってもらえるし、この活動がずっと続けていければと思う。

○石橋会長

学校という施設は地域の中心だし、そこを利用するのは大事かもしれませんね。

○認知症の人と家族の会 上村委員

認知症本人とその人を介護されている人たちのサポートをさせてもらっているが、家族と一般の人との理解に隔りがある。

9月はアルツハイマー月間で認知症の正しい理解に向けて啓発活動も行ったが、若い人は関心がなく、パンフレットも受けとってもらえず、厳しい現況である。

認知症の方を家族と地域の人で守ろうとするが、本人や介護する家族が病気のことを知られたくない、隠したいという気持ちを持っている。メディアでも若年性の認知症等について取り上げてもらっているが、本人とその家族は「認知症です。認知症を抱えている家族です。」と言えるようになるというのが、まだまだ自分の気持ちを言える人は少ない。自分の気持ちを言えるような方を増やしていけばいいと思う。

家族の会、サポーター、地域の方、認知症の家族の方と話しあえる場が持てるとよい。

○石橋会長

若い人にも認知症の正しい理解をしてもらいたいと思っている。大学の学生については、授業を使って研修に行く機会を作り、認知症を知ってもらっている。もっといろんな方法を考えて、知って理解してもらうことが大切。

○健康づくり・介護予防等を推進する西区の代表 大森委員

校区社会福祉協議会の会長になって年100回の行事をこなしているが、地域住民になかなか自分の考え方が地域に浸透しない。地域包括的に関する「みんなで支えあう春日の暮らし」という会を作った。お互いを助け合い住みよい春日のまちを作ることが大切かとささえりあ花陵の協力を得て、研修会を開催したり、各団体から理事になってもらったり、地域の病院の医師にコーディネーターになってもらい、各団体長や施設の立場で意見交換する機会を設けた。

また、福祉祭りを開催したり、日ごろ家から出られない人たちを招き、敬老会みたいな事をやっている。お弁当を出し、認知症の対応策として、去年は振込み詐欺の劇を準備中である。いかに高齢者を支えるかと実感してもらうためにこうした取組みが必要であると思う。

○熊本県作業療法士会 内田委員

まず、昨年度から区の推進会議に参加させてもらっているが、区の動きが活発だと思っている。生活支援サービスの創出から在宅医療まで見えてきている。ただ、新たな生活支援サービスとして、訪問・通所の短期集中予防サービスのC型がないなど、リハ職としては短期集中があつたら良いと思う。

また、3つの検討事項は関連しあうもので、啓発において、PRとして支え合いの意識付けは区でも流し続けてほしい。介護保険サービスの使い方に関する啓発があれば良いと思う。訪問介護の人材不足である状況があり、利用方法や担い手養成の両方のアプローチから、持続可能な支え合いの仕組みづくりにもつながる。認知症サポーターの活躍の場の創出においても、同様に担い手とそれを利用する仕組みが連携して区ごとに見られたらと思う。

○熊本県社会福祉士会 岩崎委員

認知症対策について、他の行政で認知症サポーター養成講座を受けましたというステッカーが見守りたいという表示を見かけるが、それが熊本でもお店や事業所にもステッカーがあればと思う。今「こども110番」というのをやっているが、年に1回こども110番のお宅も招いて、お礼を言ったり、校区の危険な場所とか活動状況とかの情報交換の場があり、それを高齢者向けに出来ればと思う。サポーター講座を受けましたというお店とか協力店を熊本市が指定してくれれば、大きなオレンジリングをかけた目印になれば、広

報にもなる。参加店も意識が挙がり、生活支援にもつながるのではないかと思う。

○健康づくり・介護予防等を推進する東区の代表 三浦委員

情報提供だが、10月4日 託麻原校区でサロン大交流会を開いた。各サロンの活動は活発だが、何をしているのかわからないことから、良い取り組みを情報提供した。また、徘徊ウィークデーを始め、学校では認知症を知る認知症サポーター講座、高齢者の模擬体験、交流会をしたいと施設との交流が始まったりしている。

○熊本県地域密着型サービス連絡会 川原委員

地域包括支援センターに配置した生活支援コーディネーターが機能するためには協議体や地域ぐるみでやっていかないといけないと思うがどう対応しているのか。

○事務局

生活支援コーディネーターを中心として、各ささえりあの圏域ごとに協議体を組織化し、地域の社会資源と必要なニーズを把握して、必要な生活支援を創出していくよう努めているところ。

○熊本市地域包括支援センター連絡協議会 金澤委員

メディカルネットワークについて、病院・歯科・薬局・地域包括支援センター・施設等々と連携して本人同意のもとで登録し、困りごと・介護予防・認知症と情報の共有をしようというものである。そこには家族も介入し、自分たちの困りごとも聞いてもらえ、災害時にも、いち早く安否の確認もできる。

仕組みは出来ているが、全ての病院・包括が参加している状況でもなく、市民全てが登録しているわけでもないことから、普及に向け取り組んでいるところ。

登録料として、地域包括支援センターは月500円だけは必要であるが、是非登録してもらいたいと考えている。

○石橋会長

病院にかかるたびに何回も同じ検査をしなくていいように検査は1回だけですむ。病院が変わった場合にも検査の次の段階にいけるそんな仕組みを作っているということ。

地域包括ケアは国の最重要課題、頑張っている地域包括支援センターには、地域包括優秀賞とか、やる気を起こさせるようなアイデアを出しながらやっていけばと思う。

○熊本市歯科医師会 高松委員

地域包括ケアシステムに関する取り組みは、地域により温度差がある。ささえりあでは自立支援型ケア会議を今年度は6回開催することとなっているが、頻繁に会議を開くとこ

ろとそうでもないところの差があり、ささえりあでも差がある中で、自治会の取り組みに差があることはやむを得ない。

自治会でも出来るような簡単なことをまずはやってみるような広報や仕掛けていくことで世代や人が変わっても継続的に取り組んでいけるのではないかと思っている。

広報活動については、歯科医院には元気な高齢者しか来ないので、地域で支援していく人を募集するようなポスターを作っていたいただければ貼らせてもらう。

○熊本県看護協会 耕委員

訪問看護の同行訪問についても募集しているが、人が集まらない状況であり、病院では、退院時訪問でカバーしている状況。啓発に関して、小さな会合で地域包括ケアについて話をしてもらったり、若い人の集まる区の消防団とかの定例会でお話をしてもらえば良いのかなと思う。

○健康づくり・介護予防等を推進する北区の代表 内田委員

昨年は認知症に取り組み、保健科学大学の看護科の先生や看護学生の協力を得て、健康まちづくりアンケートを2000枚作成し、調査結果を集計し年明けに活用する予定。その結果で北区は市内でどれくらいのレベルの健康度なのかを知り、今年は健康寿命を2歳延ばそうと取り組んでいる。

○熊本市地域包括支援センター連絡協議会 金澤委員

敬老会で古希・喜寿・米寿と記念の方のみの集まりになっている。超高齢社会になり、人数が多く町内で集まる場所がない。お金と場所の問題があるが、知恵を出して、校区の高齢者みんなが参加できる敬老会は大事と思う。

○石橋会長

今日の検討事項はこれからもずっと議題としてあがってくると思う。今日発言できなくても、来年度もアイデアを出してもらいたい。

○事務局

本日も熱心なご議論ありがとうございます。各委員の任期は今年度までであり、本日の会議を持って本年度の会議は終了となる。年度を明けまして各団体からの委員のご推薦をお願いしたい。

また、昨年度も実施した地域包括ケアシステムの構築に向けた関係機関・団体等の取り組みについてのアンケートの更新を実施するのでご対応よろしくをお願いしたい。

以上で本日の日程は終了する。